

# その決定、 本当に自分でしてていますか？

～中学校生活における挙手制の多数決～

## はじめに

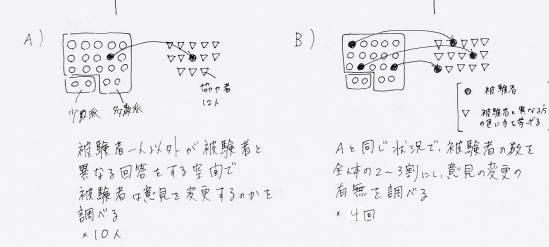
●背景  
中学校における多数決で自分の意見の力を挙げてみる  
周りの意見が分かる場合が多い。  
社内でも、周りの意見が分かることで多数派Aと意見を変えてしまう少数派Bの傾向がある。この実験を通じて、山梨大学附属中学校2年生で行う周りの意見が分かる挙手制の多数決で、どのくらい少数派が意見を変更するのかが調べられる。

●仮説  
7割程度の人が意見を変更する

## 方法

実験1  
中学2年生の男子(43人)に、4色の中から何色にも見えるか無作為でアンケートをとる。

実験2  
1がA、2がB、3がC、4がDの多数の人が選んだ色と回答した人の中から無作為に被験者を選ぶ。



## 結論

- 少数派が1人の場合  
2割程度の人が意見を変更する
- 少数派が全体の2、3割の場合  
意見を変更する人が少ない

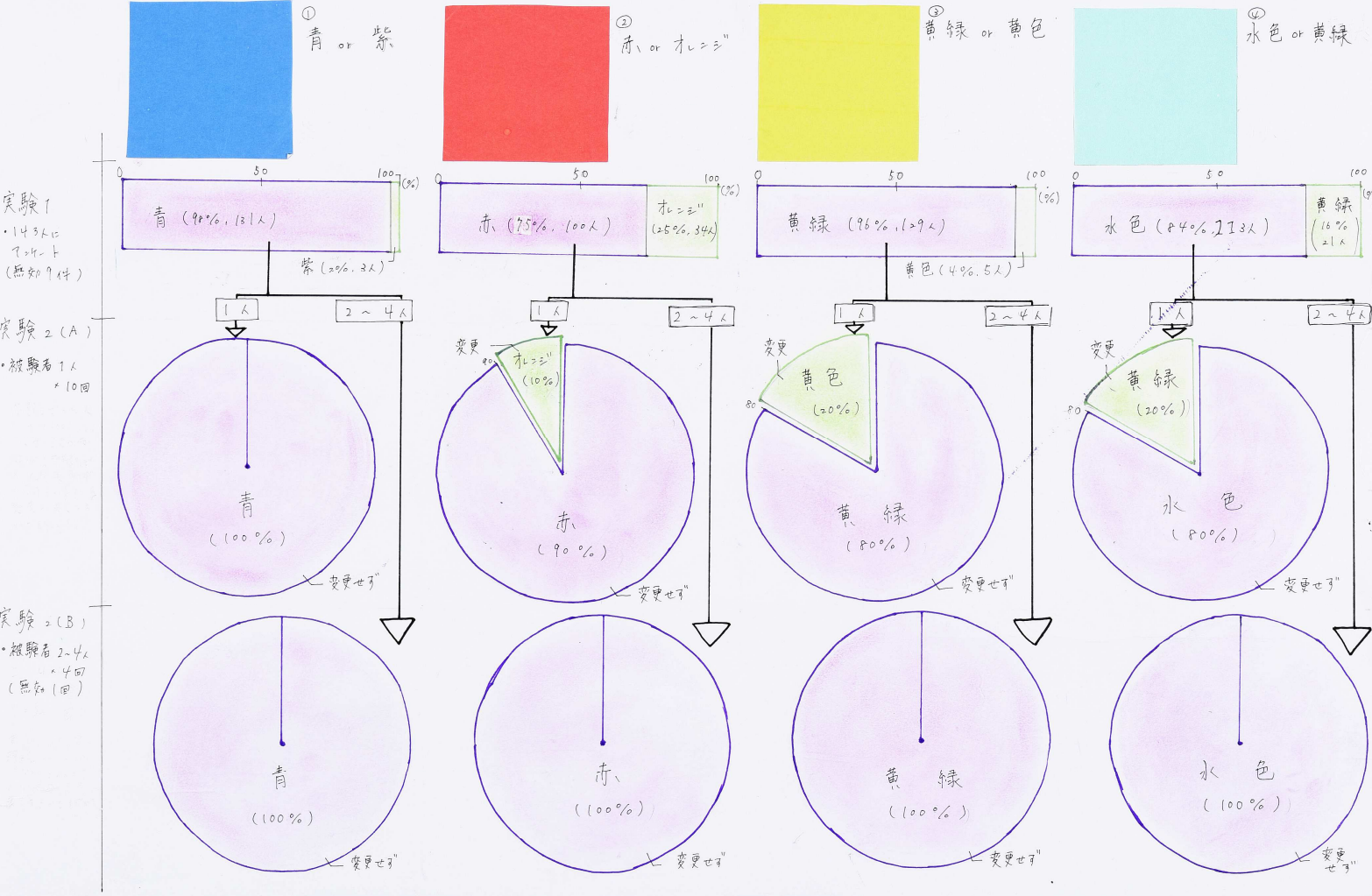
↓

深い議論と伴った挙手制の多数決には、  
**ごく少数の意見を消してしまふ恐れ**がある

注意：これは山梨大学附属中学校2年生の結果であり、一般的な結論ではない。

## 結果

質問「何色にも見えますか？」(R:38/4(8%), 7/6(11.7%) 梨大附中2年(43人のアンケート))



## 考察

1. 被験者の数と意見変更の関係  
結果から、被験者が1人である場合のみ意見の変更が見られ、全体の2~3割の意見の変更が見られる。これは自分と同じ意見を持っている人がいる場合、自分の意見が分かるから、変更される可能性がある。周りの意見が分かる場合、自分が多数派であると判断し、変更する傾向がある。つまり、自分の意見が分かることで、自分の意見が弱くなる可能性がある。

2. 色によって異なる意見変更の傾向  
意見の変更が見られた実験2(A)で、後に見せた色の中で、意見を變更した人の割合が異なる。この理由として、異なる意見は自分自身で持つという状況が、自分が同じ意見を持つという認識が強まっているという理由が考えられる。一方で、色によっては、一般的に自分が持っている意見が、その意見が強くなる傾向がある。例えば、赤は一般的に自分が持っている意見が強い傾向がある。



## 感想

1...  
自分と同じ意見の人が複数いると、安心感を得られ、変更しない傾向がある。  
2...  
意見が重なることは自分の意見が一般的ではないと思われ、変更する傾向がある。  
しかし、とても楽しく取り組むことができた。

## 最後に

今回の実験を通じて、自分の意見が分かることで、自分の意見が弱くなる傾向がある。これは、自分の意見が分かることで、自分の意見が一般的ではないと思われ、変更する傾向がある。しかし、とても楽しく取り組むことができた。